

15, ひばごけ (*Selaginella boninensis* BAKER.)

*Selaginella boninensis* BAKER, in Jour. Bot. XXIII (1885) p. 178;—  
et Fern Allies (1887) p. 111.

本品は前種の小形者なるべし、標品に於ける差は、Kew Herbarium に於て兩原品を比較するに、唯莖の太さ二分の一ミリ、側葉の長さ 2,8 ミリなるの他は葉状も円錐穂の形態も全く同一なり、但し胞子は欠如して比較し難し。

産地： 小笠原島

16, ひめたちくらまごけ (*Selaginella heterostachys* BAKER.)

*Selaginella heterostachys* BAKER, in Jour. Bot. XXIII (1885) p. 177,  
et Fern Allies (1887) p. 110;—ALSTON, in Jour. Bot. 70 (1932) p. 62;  
et in Bull. Fan Mem. Inst. Biol. V. no. 6, (1934) p. 290.

*S. recurvifolia* A. BR. apd. WARBURG in Monsunia I, (1900) p. 109.  
125;—HIERON. in ENGL. et PRANTL., Nat. Pfl. Fam. I. 4. s. 696. (1902).

*S. integerrima* (non SPR.) MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1925) p. 1551,  
et ed 2, (1931) p. 124.

傾臥せる莖は處々より根を生じ、円錐穂を附くる枝は斜上立して分枝す、腹葉は暑半心藏状にして先端尖り長さ 3 ミリあり、周縁には疎に微齒あり、脊葉は直にして卵形を呈し先端は漸尖頭なり、大胞子は微小突起あり。

産地： 八丈島、本州中部以南、四國、九州、對馬、屋久島、種子島、徳ノ島、臺灣

分布： 支那南部、印度支那

## 日本植物覺書 2

(*Sertum Japonicum* 2, auct. J. OHWI)

大井次三郎

8) ツクシガヤ——學名は小泉先生が前原勘次郎氏の採集品によつて新屬新種として記載された通り *Chikusichloa aquatica* KOIDZ. である。その後九州では肥後の他にも薩摩・肥前・筑後。の諸國にも分布して居る事が明かに成つたが普通の植物ではなく。又 1931 年秋以禮氏が支那の江蘇省にも産する事及廣西省では他の一種 *Chikusichloa mutica* KENG がある事を報告するまでは日本の九州だけに特産のものと思はれて居た。本邦では九州以外にはまだ發見されて居らなかつたが昨秋九月東北地方の羽前國東置賜郡吉島村の水邊で小松農學校長加藤元助氏が發見され。その當時は小花が一層粗澁なので變に思つたが本秋同氏から豊富な生品を送つて頂いたので全く

Dec. 1935.

231

同じ物である事が明かに成つた。中間に発見せられずに九州と羽前國とにある事は地理上非常に興味ある事實である。

9) **シロミハリキ**——初めカムチャツカで記載された *Scirpus margaritaceus* HULT. を改めた *Heleocharis margaritacea* MIYABE et KUDO がその學名である。宮部、工藤兩氏著北海道樺太植物誌には石狩國として産地に擧げてあるが私は北見國の濱頓別で採集した事があるし、北海道の濕地には所々に産するのではあるまいかと想像する。南千島でも私は國後島の古釜布大谷地で見付つけた事がある。本州では從來知られて居らなかつたが本年七月盛岡市の福田裕氏が陸中國岩手郡柳澤で発見せられたが特筆に値する。と同時に東北地方には北海道方面と共通の種類が多いと云ふ証據の一つにも成ると思はれる。

10) **ヒメキランサウ**——*Ajuga pygmaea* A. GRAY で九州から琉球の産。島田彌市氏は台灣淡水郡石門庄の海岸で発見採集せられた。同地には新しいと思はれる。

11) **アツバハヒチゴザサ**——*Isachne firmula* BÜSE の名で知られて居たが此れはジャバの植物であつて私は以前から此れについては疑ひを持つて居て琉球から記載された *Isachne commelinifolia* WARB. in FEDDE Repert. 16 (1920) 352 が正當な學名と信じて居る。琉球及台灣の産であるが本田博士は *I. firmula* BÜSE の名の下に九州薩摩城山の標本を擧げて居られるから九州にも産するものらしい。

12) **タチハコベ**——*Moehringia platysperma* MAXIM. で從來北海道から九州まで分布して居る様に思はれて居たが台灣にも比較的多く産する。同地では *Arenaria petiolata* HAYATA と呼稱されて居る。

13) 邦産**ナギナタカウジュ**屬の植物——*Elsholtzia* WILLD. (1790) 屬は *E. cristata* WILLD. 外一種から記載された屬であるが後に他の一種は他屬に移されてしまつたから事實上**ナギナタカウジュ** (*E. Patrini* GARCKE 即ち *E. cristata* WILLD.) が type species である。此屬は種数は餘り多くない歐亞大陸の特有で特徴はよく判つて居るから説明する程の事もないであらう。本邦で此屬のものとして發表された *E. pseudo-cristata* LÉV. et VAN. (朝鮮), *E. formosana* HAYATA (台灣), *E. minima* NAKAI (朝鮮) の三種は工藤博士の *Labiatarum Sino-Japonicarum Prodromus* によれば皆 *E. Patrini* GARCKE との事であるから現在異名とされて居らぬ植物は

1. *Elsholtzia Patrini* GARCKE. ナギナタカウジュ
2. *Elsholtzia Oldhami* HEMSL.
3. *Elsholtzia splendens* NAKAI. ニシキカウジュ

4. *Elsholtzia interrupta* OHWI. ヨナギナタカウジュ.

の四種である。此の内 *E. Oldhami* HEMSL. は OLDHAM の台湾で採集した標本に HEMSLEY が命名した種類で本邦學者の間には全く不明の一種である。

私は内地産のナギナタカウジュの標本を見て居る内に偶然二つの型がある事に發見した。その一つは北は南千島、朝鮮から南は九州に至るまで最も普通に分布して居る *E. Patrini* GARCKE 即ち眞のナギナタカウジュで葉は狭卵形乃至卵形で花部にある苞は廣圓形で中央部が最も巾廣いものである。他の一品は葉が稍巾廣く、苞は多少毛深く扇狀円形で中央部よりも上の方が最も巾廣く、花穂も多少太くて短かい。此の型は分布が狭くて私は京都附近及九州の標本を見て居る。兎に角此の植物は別の型で種が違ふと考へたので *Elsholtzia nipponica* OHWI と假りに定めて標本上に書いて置いた。所が此の型のものは苞が毛深い点で早田博士が台湾で記載された *E. formosana* HAYATA に一致するし、その他の部分も記載だけでは可なり一致するので東大の佐竹義輔氏にお頼みして早田博士の原標本を見て頂いたりして大体それと同じ物と想ふて居たが又一方吾々には不明な種類である *E. Oldhami* HEMSL の記載を良く讀むと大さう若い標本に依て記載したもので HEMSLEY は花は四列に配列する特徴を誇張して居るので初めは變に思つたがよく見るとナギナタカウジュの類の花序は若い時は苞は皆四列に配列して居るものであるから大して重視するにも及ばないし、その他の点では大体早田博士の記載と一致するから私は *Elsholtzia Oldhami* HEMSL. = *E. formosana* HAYATA と考へる。従來 *E. Patrini* GARCKE (ナギナタカウジュ) が台湾にあると云はれて居たのが皆此の型のものであらうと云ふ事は台北の中央研究所、藤田安二氏の御厚意によつて判つた上に同氏から見事な標を頂いたので一層細かい事がはつきりした。内地産の一型は此の台湾のものと酷似して居るがよく調べると僅かではあるが相違点が認められる。台湾のものは葉は狭卵形でその下面には多少著しい短毛があるが内地のものは葉巾が廣く卵形乃至廣卵形で裏面の毛茸も殆んど無い。従つて此れは台湾のものゝ變種として取扱つたら最も當を得たものと思ふので次號歐文で記載する様に名前を改めたいと考へる。尙佐竹義輔氏に従ふと東大標本室には標本上に一二の新種としての名稱が記入されてある由であるがその標本を見ない私としては名稱はあげない方が良からうとは思はれる。以下便宜上檢索表の形式で邦産の種類をあげると。

- 1) 苞は扇狀円形、中央より上部巾最も廣し、基脚は楔形、背面には短毛ある事多し、縁邊には長毛あり、頂端は長さ 2-3 mm. の芒と成る。

Dec. 1935.

233

- 2) 葉は卵形乃至狭卵形. 裏面は短毛あり (台灣). タイワンナギナタカウジュ  
 \_\_\_\_\_ E. Oldhami HEMSL.
- 2) 葉は卵形乃至廣卵形. 裏面は殆んど平滑 (本州. 九州) フトボナギナタカウ  
 ジュ \_\_\_\_\_ E. Oldhami var. nipponica OHWI.
- 1) 苞は心臟狀卵形乃至廣円形. 中央部又はそれ以下にて巾最も廣し. 基脚円形. 先  
 端の芒は 1-2 mm.
- 2) 花序は密. 花軸は前面よりは見えず. 萼齒は短芒に終る.
- 3) 苞は心臟狀円形. 先端は稍漸次芒に細まる. 中央より下部巾最も廣し. 花  
 は大. 紫色長さ 6-8 mm. (朝鮮) ニシキカウジュ \_\_\_\_\_ E. splendens NAKAI.
- 3) 苞は廣円形. 中央部巾最も廣し. 先端は急に芒と成る. 花は小. 長さ 4 mm.  
 前後. 淡紅紫色. (南千島. 北海道. 本州. 九州. 四國. 朝鮮). ナギナタカ  
 ウジュ \_\_\_\_\_ E. Patrini GARCKE.
- 2) 花序は花後著しく疎. 花軸は花序の正面より見る事を得. 萼齒は鋭けれど芒  
 と成らず.  
 (本州) コナギナタカウジュ \_\_\_\_\_ E. interrupta OHWI.

尙 HANDEL-MAZZETTI に依ると E. Patrini GARCKE の花の大きなものは E. Feddei  
 LÉV. と云ふものらしいとの事である.

14) カウバウモドキ — Festuca sibirica HACK. 即ち Leucopoa albida V. KREUZ.  
 et BOBR. が滿洲の滿州里に産する. 佐藤潤平氏の採集である. 此植物の外観はすこぶ  
 る奇抜なもので 相當大きな株に成らしく 匍枝等は見られず莖の下部には枯れた葉  
 鞘が澤山ついて居る. 葉はカウバウそつくりで花穂の色も光澤もよく似て居るが花序  
 は一層密で殆ど穂狀をなして居る. PIPER は Leucopoa と云ふ屬は若しそれ以前の屬  
 に含ませるのならば Poa にであつて Festuca にはないと考へて居るが葉鞘の狀  
 態. 葉舌に毛がある點. 花に長軟毛のない點. 護穎の龍骨が不完全な點等別屬として取  
 扱はないなら. むしろ Festuca とした方が穩當と思はれる.

### タネガシマムエフラン九州高隈に産す

田代善太郎

タネガシマムエフラン (*Aphyllorchis tanegasimensis* HAYATA.) は早くも 1891 年  
 に種子島に發見せられ、早田氏に依つて研究された植物なるが、正宗嚴敬氏はこれを